

フィッシュ・オン!

紀伊水道の釣り——深海に挑戦——

二月、陸は冬真っ盛り。

陸より季節の推移が遅い海は、四月になってもまだ冬だ。

この冬、釣りには一年を通して最も厳しい季節だが、この時期ならではの釣りもある。

深海釣りだ。紀伊水道では以前から、日置～串本にかけての水深200メートル～300メートルでムツやメダイ。400メートルから600メートルでアコウダイなどの深海釣りが行われてきた。

15年程前まで、深海釣りは大仕掛けなうえ、操船も難しく、職漁や遊漁船に限られていたが、現在は細くて、強くて、伸び率が低い、正に深海釣りに理想的な糸「PEライン」や、強



力、小型のモーターを内蔵した優秀な電動リールが開発され、マイボートでも挑戦出来る領域になってきた。

ただし、深い海での流し釣りなのでスキャンパーかシーアンカーは必要不可欠だ。また、魚群探知機はアコウダイの居場所を探るだけでなく、海底地形や地質を探知する上でも欠かせない。

釣りは場は広大。日置から周参見、見老津、和深、串本などからは5マイルも沖に出れば水深400メートル以上の候補地が連なっている。更にこの中で起伏に富んでいたりと、岩礁帯が点在していたり……。とにかく、変化底にスポットを当ててトライしてみる。

そうそう。ボートには丈夫なロッドホルダーと、多バリ仕掛けを整然と保つマグネット板をお忘れなく。マグネット板は幅2センチ、長さ1メートル程でサイドデッキにしっかりと装着する。

タックル

ロッド＝長さ2.1メートル～2.4メートル。六四調子でオモリ負荷200～300号。1.8メートルでも良いけど長竿は波動による揺れを吸収するので、置き竿状態の時、何百メートルもの彼方からの微妙な魚信も敏感に伝達してくれる。

リール＝PEライン6号を800メートル以上ストック出来る中型以上の電動リール。24Vなら強力だが12Vが一般的だ。

仕掛け＝胴付き式で職漁家は20本以上の多バリだが、マイボートの場合、6～8本が扱いやすく、これでもアコウ釣りには充分だ。

幹糸ナイロン20号1.5メートル間隔に親子スイベルで14号60センチのエダス。ハリはムツバリ18～20号。先端に捨て糸12号2メートル。スナップ・スイベルで200号シンカー。

ラインと仕掛けの間に回転防止のリングと水中ライト。サメやセイコクなど外道が多い釣り場ではライトを外す。

餌＝イカとサバのカットベイト。幅1.5センチ。長さ8～10センチでハリにはチョン掛け。

この外、サケの腹部の皮、イイダコ、アナゴなども有効だ。

釣り場で

潮が流れる方向を頭に入れ、多少でも深い所から浅くなるような「カケ上り」のポイントをキャッチしたらいいよ釣り始めだ。バウを風に向け、押された分だけエンジンパワーで押し戻してラインが垂直に沈むように操船する。仕掛けはマグネット板にセット、餌をつけたらオモリから順に一段ずつ沈めてゆく。

一気にオモリを投入する手もあるけど、これは、ある程度慣れてから。それより、時間はかかるけど仕掛けをからめず確実に海中に入れることだ。

ここでリールのレバーをオフにしてラインを伸ばす。100メートル、200メ

